

新潟県立出雲崎高等学校
第1回特別支援教育職員研修会
R6. 4/17

成果を出すとは？ 【最上位目標】

出雲崎高校（定時制高校）の社会的使命を果たすこと

（グラデュエーション・ポリシーを実現すること）

何らかの困り感（学習の困難さ、発達障害、愛着障害、不登校経験、家庭的な事情、転編入 等を含む）を抱えている生徒にも本校の教育を丁寧に届け、人生100年時代、VUCAの時代に

Well-beingな生き方を持続可能にできる力を身につけさせる

グラデュエーション・ポリシーの実現

人生100年時代、VUCAの時代を
Well-beingな生き方を持続可能にしていくために

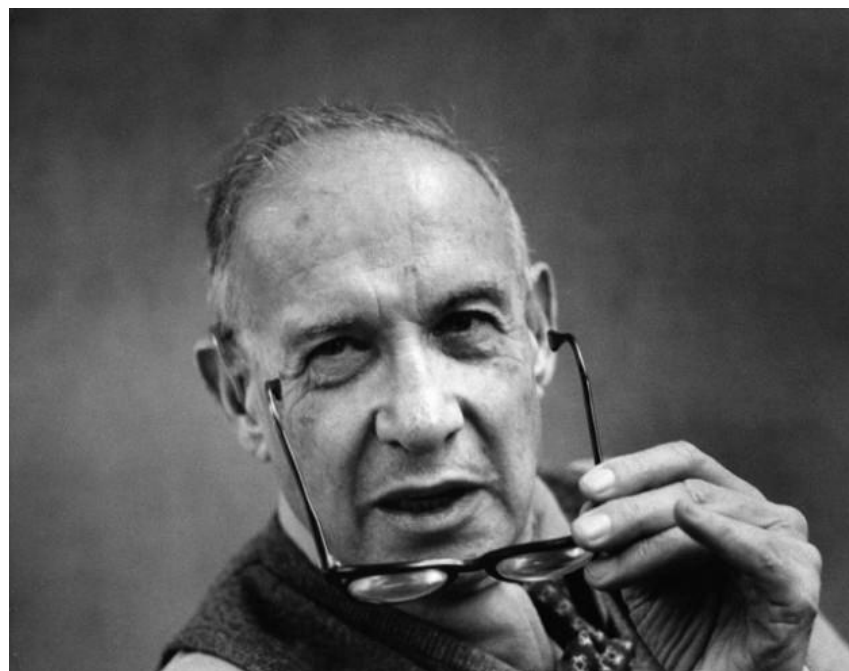


- ★ 精神的な自立
- ★ 社会的な自立
- ★ 経済的な自立
- ★ 希望への輝き
- ★ ゆたかな情操

楽をして成果を出すために(1)

学校現場に「もしドラ」導入

- ①教育哲学
 - ②教育理論
 - ③教育技術
 - ④教育実践
- の一体化を図る



楽をして成果を出すために(2)

学校の発想も農家の発想で

- ①時代を読む
- ②価値の見せ方
- ③実践ありき
- ④主体者意識
- ⑤結果重視



楽をして成果を出すために(3)

教育現場も医療現場の様に

①健康重視

（發達支持的生徒指導）

② アセスメント

(理論ベース>経験と勘)

③チーム学校

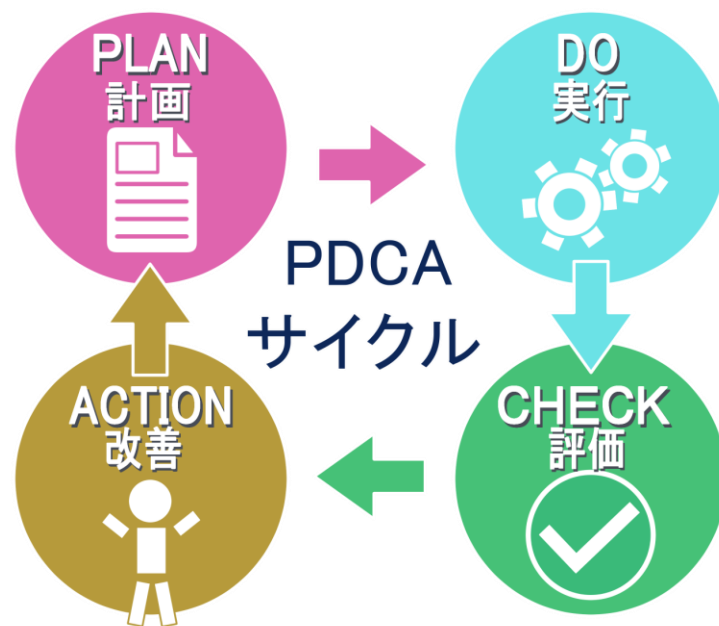
（専門性の組み合わせ）



楽をして成果を出すために(4)

小規模の強みを最大限生かす

- ①顔の見える関係
- ②目標の共有容易
- ③臨機応変な対応
- ④PDCAサイクル
- ⑤成果の確認容易



楽をして成果を出すために(5)

生徒の特徴を最大限生かす

- ①伸びしろ大きい
- ②交流欲求が高い
- ③個性的→魅力的
- ④素直で優しい
- ⑤寛容性が高い



楽をして成果を出すために(6)

目的・目標達成志向の集団へ

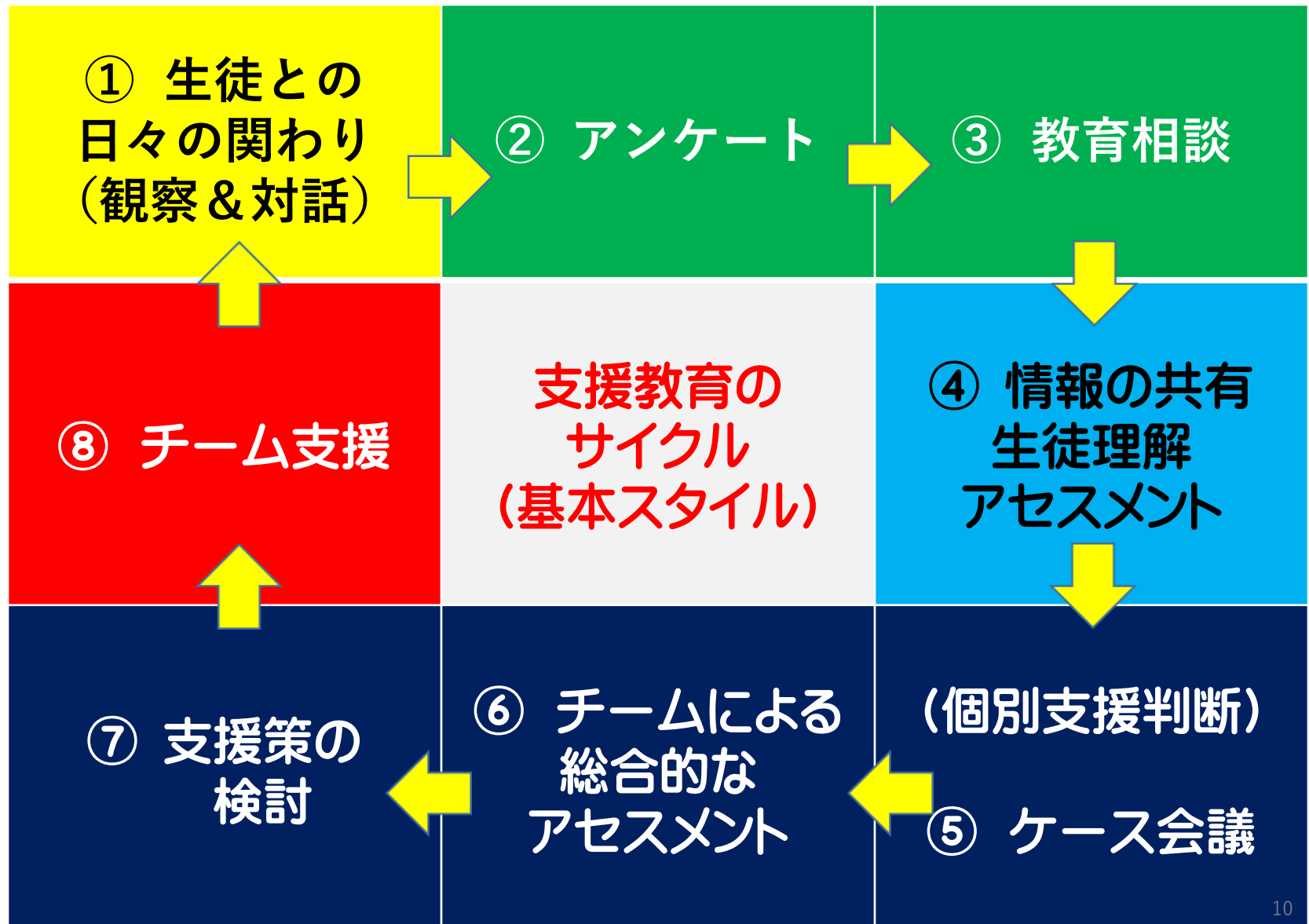
①メンバーシップ

- 目的 ⇄ 対話 ⇄ 実践
- 学校自己評価表 (計画)

→ ○ 最上位目標達成の
価値への共通理解
○ 取組への主体者意識
○ 役割分担と支え合い 等々



支援教育のサイクル



①生徒との日々の関わり

本校の特徴

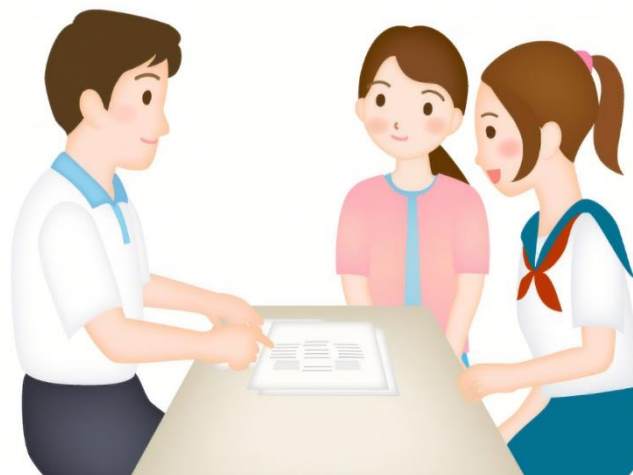
【 小規模 = 顔の見える関係 】

を強みにして、教育を組み立てる

Face to face communication

- ★「安全・安心な空間」の土台作り
- ★「学びに向かう力」の土台作り

②アンケート
③教育相談
④生徒理解 等



→上手くいっていることの確認

しかし、仮に上手くいっていない面が感じられたら
一人で抱え込まずに、速やかにケース会議を行う。

⑤ ケース会議の開催

(目標は)

1事例を25分で完結

そして

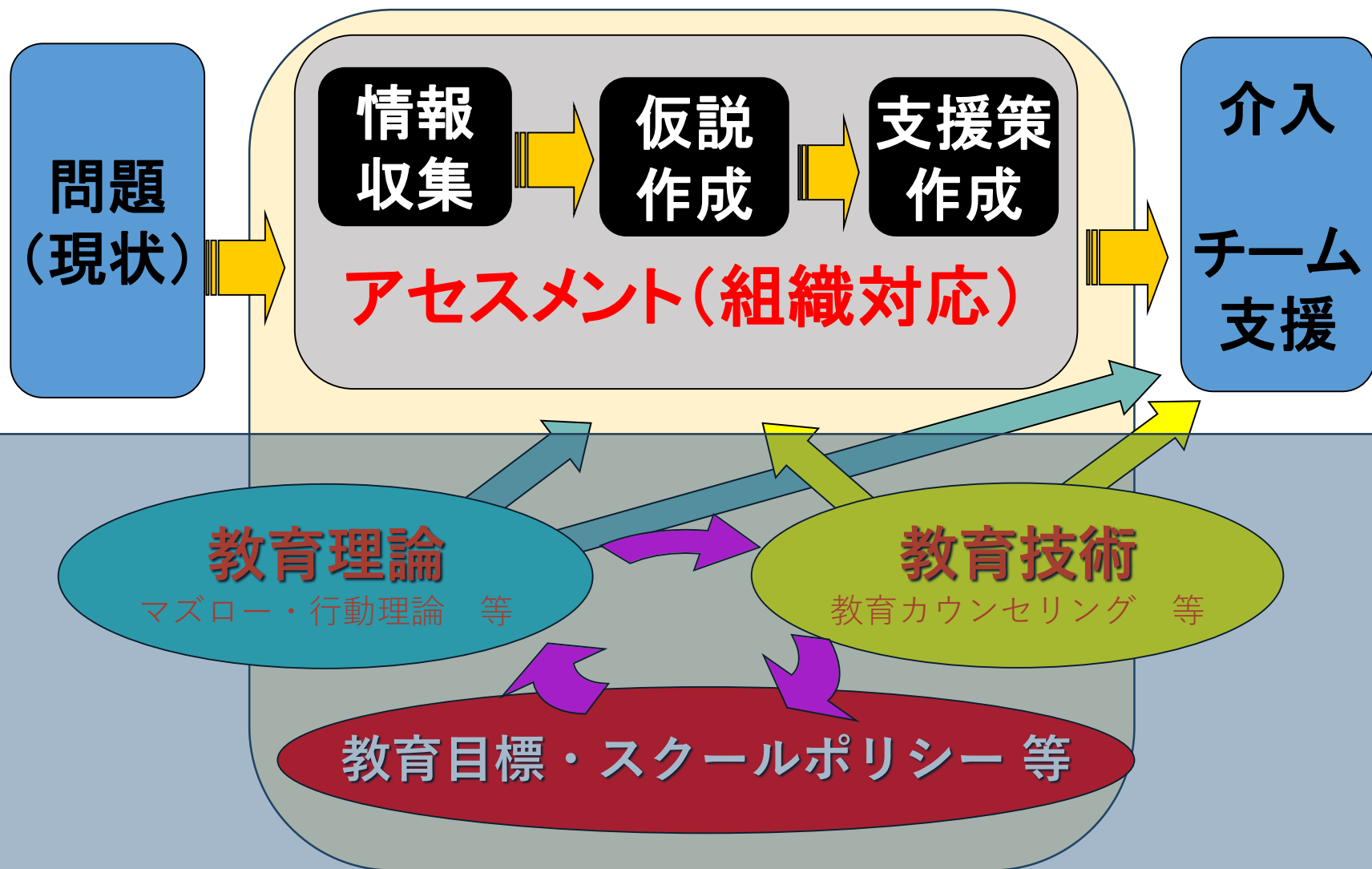
**より正確な仮説を考え、
より最適な支援策を作成する**



(誤解の無いように言えば、)

支援策の実施は「生徒の問題を大人が肩代わりすること」でもない。
例えば、「何もしない」ということが、最適な支援策になることもありうる。

ケース会議 これを25分で完結させる



この水面下を意識してチーム支援に繋げる

⑥チームによるアセスメント

目の前の行動が起きている理由を
ストーリー仕立ての「仮説」としてつくる

複数の生徒情報を組み合わせ、
理論や知見にあわせて、分析や解釈を行い、
その問題(現状)の原因・理由・背景を推測し、
「〇〇が原因で□□になっているのでは……」
との仮説をつくる。

→ そのためには、**複数の生徒情報**が必要

生徒情報の具体例

!

- ・**教師の観察**（生徒（個×集団）、友人・保護者関係 等）
- ・**面談の実施**（直接・間接、当事者・関係者に聞く）
- ・**中学校情報**（各種数値、エピソード、生育歴 等）
- ・**家庭環境調査票**（家族構成・家族関係 等）
- ・**教務成績**（成績、出欠 等）、**保健室情報**（心身 等）

+

- ・**アンケート用紙**（アセス、B-SAFE、エゴグラム 等）
- ・**検査結果**（ WISC-IV 、 WAIS 等 ）
- ・**臨床的な情報**（医療機関 等）

※**始めは必要最低限な情報でも、その後、追加すれば良い。**
（見通しを持って、取り組みを**効率的に行っていく。**）

⑦支援策の作成

「支援策」の作成は、過去から今に繋がっている
ストーリー（今までのシナリオ）の延長上に、
未来のサクセス・ストーリー（新しいシナリオ OR
作戦計画書）を描く作業に近いかもしれない。

「〇〇を生じさせ、□□にして、より良くしていく！」

との「成功のシナリオ」をリソースを使い書き上げる。

⑧チーム支援

組織として「成功のシナリオ」に取り組む。

その取組をしばらく(1～2週間)
続けてみて、シナリオ通りに事が
進んでいるか確認し、必要に応じて、
更にシナリオを書き換えていく。

そして、
生徒自身がWell-beingな生き方を
持続可能にできることを目指していく。



哲学1

支援策のゴールは グラデュエーション・ポリシーの実現

人生100年時代、VUCAの時代を
Well-beingな生き方を持続可能にしていくために



- ★ 精神的な自立
- ★ 社会的な自立
- ★ 経済的な自立
- ★ 希望への輝き
- ★ ゆたかな情操

哲学2

支援策のベースは

カリキュラム・マネジメントの実施

生徒の発達・成長を見極めながら、

①から順番に⑥まで積み上げていく。

(マズローの欲求段階充足説 的に)

- ★⑥ 自己決定する機会
- ★⑤ 教育資源有効活用
- ★④ PDCAサイクル
- ★③ 学びの価値の実現
- ★② 自己存在感の感受
- ★① 安全・安心な空間



iStock
Credit: sabelskaya

哲学3

教師自らが

「変化を生み出す主体者」になる



★生徒のストーリーの中に
教師自身が入り込み、
生徒の変化の第一歩を
教師自身が生み出す！

because

生徒の「教師サポート」への認知は
教師自身で変えることが可能

哲学4

教師がお互い メンバーシップを発揮して動く

★組織として
目的を共有し、
その実現に向け
取り組む

その際

支援チームの仲間同士で
役割分担して、
協働し合う！ 支え合う！



哲学5

目的・目標志向の教師集団となる

教師にも当然多様性がある
個性的でもある
自分のやり方と違う人もいて
ある意味、当たり前かも!!



我々にとって最も大切なのは

目的・目標を共有した教師集団であること !

目的1番

目標2番

手法は3番（その人の長所発揮・役割重視）

哲学6

教育心理学の理論ベースで取り組む

経験と勘が通じにくく、むしろ逆効果にもなる可能性もある
だからこそ、理論を大切にする。

- ①マズローの欲求5段階説
- ②アタッチメント理論（愛着理論）
- ③ソーシャルボンド理論
- ④行動理論



※SC、SSWの協力を得て、心理学的な理論に基づく方法で、
成功確率を高めるように、ストーリーを構築しましょう。

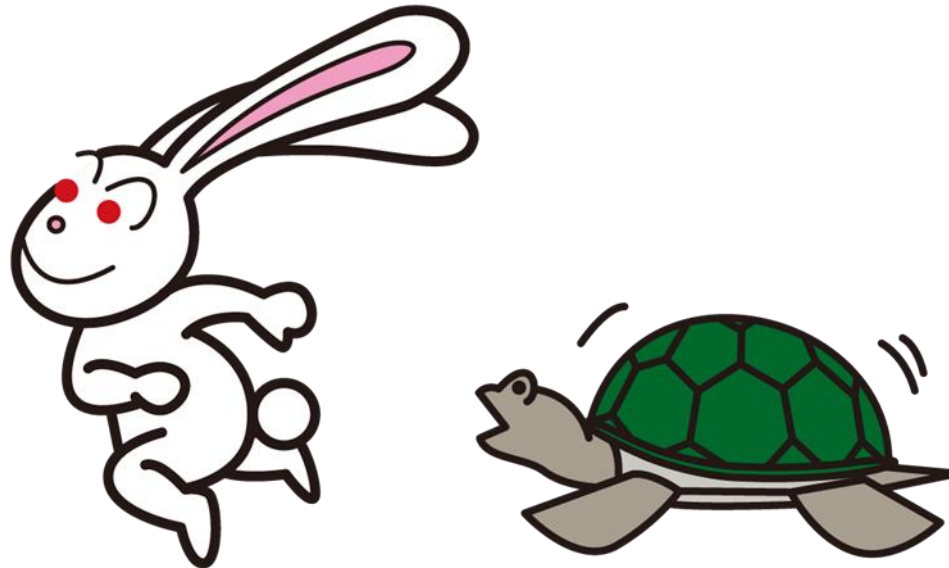
STEP5で未来のサクセスストーリーを考える視点

(5-1)

この生徒のサクセスストーリーの夢のある現実的ゴールは何？

アセスの形をどの様に変化させること？

その生徒がWell-beingに生きる第1歩をリアルにイメージしてみよう！



未来の
サクセスストーリー

きっと私は！
(希望への輝き)

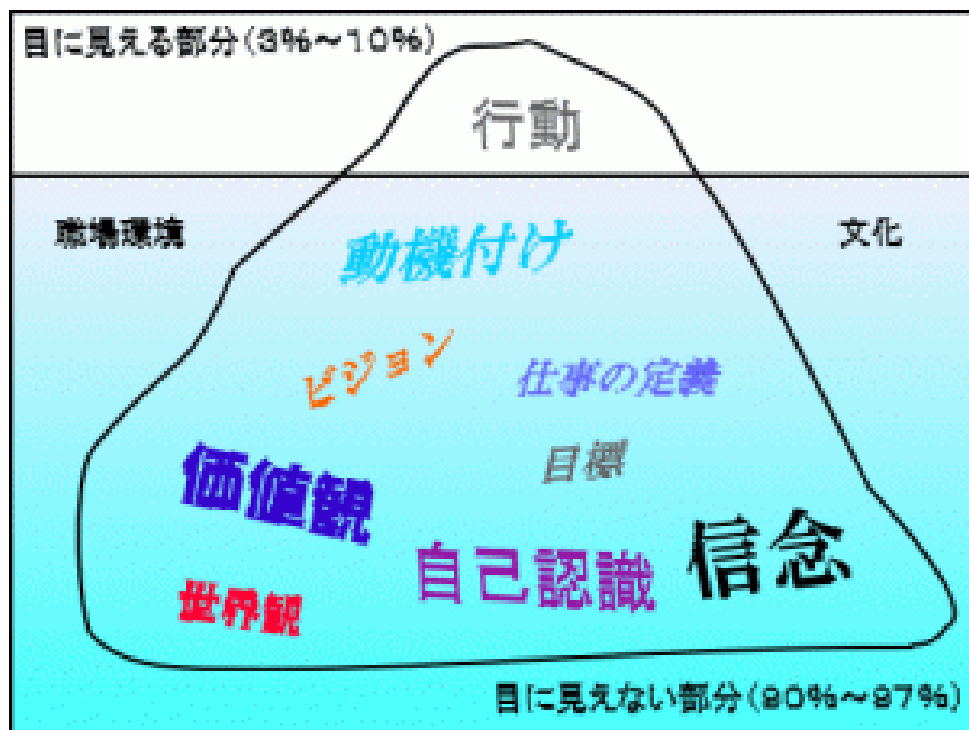
ひょっとしたら私は……

どうせ私
は……

STEP5で未来のサクセスストーリーを考える視点

(5-2)

今、この様になっている原因・背景には何が考えられるか？
(→STEP1～STEP3の活用)



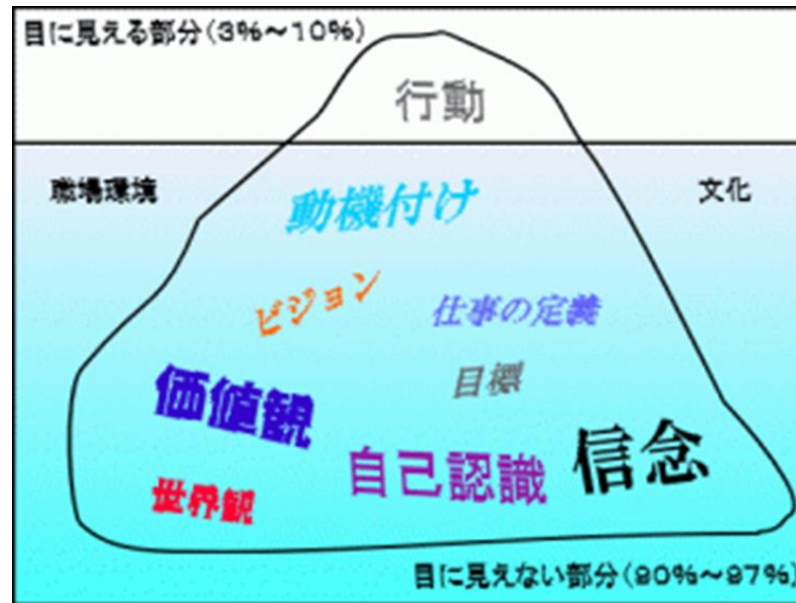
STEP5で未来のサクセスストーリーを考える視点

(5-3)

その原因・背景・システムをどの様に変化させていくか？

それも抵抗感が少なく取り組めるものが良いけど……

その原因・背景・システムが変化すれば、巡り巡り生徒自身も変化するはずだ



STEP5で未来のサクセスストーリーを考える視点

(5-4)

支援策を作る際に使えそうなリソースを広く探そう！

- ①本人 (興味・関心、長所・短所、エピソード)
- ②ヒト (だれ？ その人のどの部分？)
- ③モノ (何をどの様に？)
- ④カネ ()
- ⑤時間 (いつ、タイミング、何回 等)
- ⑥情報
 - P 政治
 - E 経済
 - S 社会
 - T 技術
- ⑦その他 何でもOK！



STEP5で未来のサクセスストーリーを考える視点

(5-5)

その生徒のアセスの形から見える見えそうな視点は？

(リソース)

数値の高い長所 = 長所（自信・自己効力感）

数値の低い長所 = 短所（劣等感）

数値の高い長所と低い短所の相互作用

(5-6)

その生徒のそれ以外のリソースをもっと挙げてみると？

エピソード（最高の自分、最低の自分）、価値観、
性格（長所、短所）、進路希望、興味・関心 等々

STEP5で未来のサクセスストーリーを考える視点

(5-7)

サクセスストーリーに欠かせないようなキーパーソンは？

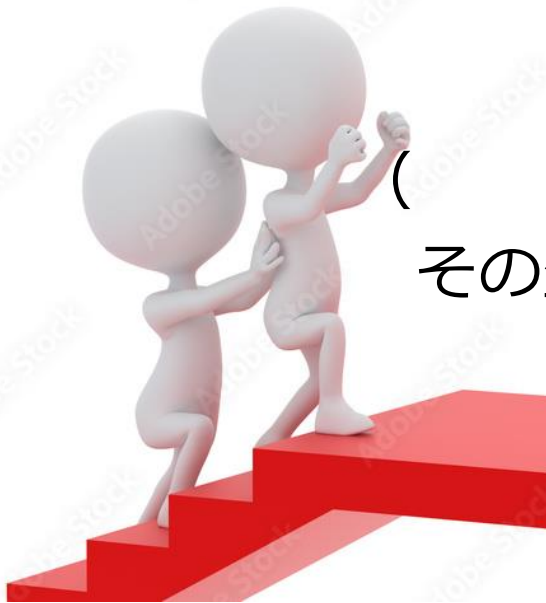
- ①生徒が親しみを感じている先生
- ②担任
- ③副任
- ④学年主任
- ⑤部活動顧問
- ⑥養護教諭
- ⑦管理職
- ⑧保護者
- ⑨SC、SSW
- ⑩友人、級友 等々



STEP5で未来のサクセスストーリーを考える視点

(5-8)

そのキーパーソンは、生徒の対人的適応感を高めるために
どのようなサポートができそう？



() さんによる
その生徒に向けた

道具的サポート
情動的サポート
評価的サポート
情緒的サポート

※この (5-7)→(5-8) を複数の人でアイディアを出すように考えてみよう。
どれが効果的か？ また無理なく出来そうか？ サクセスストーリーを検討

STEP5で未来のサクセスストーリーを考える視点

(5-9)

生徒の友人でストーリー展開に
協力できそうな生徒は誰？

(5-10)

協力者（生徒）のアセスの形から
見える見えそうな視点は？

（リソース）

数値の高い長所

数値の低い長所

数値の高い長所と低い短所の相互作用



STEP5で未来のサクセスストーリーを考える視点

(5-11)

授業担当者が担える役割は？

※授業で過ごす時間が多いので、
授業の中で如何に仕組むかは
かなり効果的に働く



協同学習による学びのユニバーサルデザイン

主体的、対話的で深い学び
個別最適で、協働的な学び

生徒同士を
交わせる

STEP5で未来のサクセスストーリーを考える視点

(5-12)

学校で「新・学力」を伸ばすストーリー展開をつくる

※ 「対人的適応感」を高める指導が必要・不可欠



(5-13)

授業で「対人的適応感」を高め、「学習的適応感」に繋げる

- ① 教師が生徒（個×集団）をサポートする
- ② 生徒同士がサポートしあう場面を意図的につくる
- ③ 授業で生徒に「人の関わり方」を教え込む
- ④ いじめられ感、疎外感等には毅然と対応

STEP5で未来のサクセスストーリーを考える視点

(5-14)

総合的な探究の時間で

タネをまいておくべきこと



言葉や行動次第で、相手の
反応が変わることを知る

自ら比較検討し、
言動を選択できる力

(5-15)

自己探究の時間で

タネをまいておくべきこと



(5-16)

休み時間や特別活動などで

タネをまきたいしておくべきこと



STEP5で未来のサクセスストーリーを考える視点

(5-18)

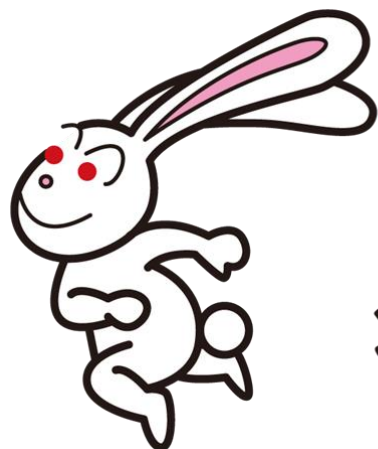
生徒の内発動機づけを高めるためには？（やる気スイッチ）

①他者から強制されない「自己決定」(自律性)

②自己の能力の高さを認識する「有能感」

③他者との安全な「関係性」

を仕組む



初めはイヤイヤだったけど、
だんだん面白くなってきた♪

STEP5で未来のサクセスストーリーを考える視点

(5-19)

結局

生徒のサクセスストーリーを教師一人が抱えてしまっては、無理がかかるし、うまくも行きにくいわけです。

楽しんで成果を出すには、**多くの人が、それぞれの場面で同じ目標達成に向け、役割分担して、取り組む方が良い。**

また、問題が出てから対応するのではなく、**発達支持的生徒指導を「授業」を中心に行い、**

生徒がイキイキと過ごせる

学校づくりを行うことが

最も大切ですね！

